まえがき　iii

序章　ある禅僧の船旅――海賊の周辺　1

一　船と船頭　2

二　港の景観　7

三　海賊との遭遇　15

第一章　東国武士、海賊になる――安芸国蒲刈島と多賀谷氏

一　安芸国蒲刈島・伊予国北条郷・武蔵国多賀谷　26

二　瀬戸内への進出　36

三　蒲刈多賀谷氏　42

四　もう一つの多賀谷氏　52

五　富士信仰の伝播　62

第二章　南朝の海上ネットワーク――伊予国忽那島と忽那氏　67
一　瀬戸内を行く懐良親王　68
二　忽那義範の軍忠　73
三　九州へ向かう海賊　83
四　海峡を望む海城　89
第三章　港を支配する海賊――備後国鞆と因島村上氏　99
一　二つの宇賀島　100
二　鞆の港　110
三　「鞆津主」としての因島村上氏　118
四　毛利氏の水軍基地　126
第四章　港を要求する海賊――周防国秋穂と能島村上氏　133
一　能島村上氏の港支配　134
二　港を要求する交渉　141

三　秋穂の港　146
四　浦銭の徴収　152
第五章　海賊の船　159
一　戦国時代の軍船　160
二　文献から見た軍船　164
三　海賊と軍船のかかわり　175
四　軍船の機能　180
終章　港から港町へ——安芸国瀬戸田と生口氏　187
一　瀬戸田の船頭たち　189
二　港の条件　202
三　港町の形成と景観　210
四　港町の変容　220
五　水軍としての生口氏　227

注　237
文献・史料一覧　247
初出一覧　257
あとがき　259
索引　(i)